

高木俊宏 ギャラリートーク 2013年9月7日(日) 資料

高木稔 (1931年～2009年) 岡山県倉敷市玉島生まれ

- 1948年 高校時代横内太郎氏に師事
- 1952～60年 玉島「火虹会」に参加 岡山県展出品
- 1968～98年 横内氏所属の新世紀美術協会に出品 (72年準会員 84年佳作賞 95年会員 97年岡山副支部長)
- 1992～98年 個展(画廊喫茶ラループ:玉島)
- 1995年 「第3回足摺の海と風景絵画・写真展」黒潮賞 (土佐清水市立市民会館)
- 1998年 「街角ふれあい絵画コンクール」佳作賞(岡山県瀬戸町)
「日本の自然を描く」(上野の森美術館)
- 1999年 個展(玉島郵便局)
- 2000年 個展「高木稔画業 50周年」(玉島文化センター)

ライオネル・ファイニンガー (1871年～1956年) アメリカのニューヨーク生まれ

- 1880年代後半 ドイツに行き、絵画を学ぶ。
- 1910年代 キュビズムの影響を受ける。
- 1913年 青騎士のグループでカンディンスキーやクレーなどと活動する。
- 1919年 バウハウスにて教鞭をとる。
- 1937年 妻がユダヤ系だったため迫害を逃れてニューヨークに戻る。
キュビズムとドイツ表現派の影響を受けた作品を制作する。
透明感のある色彩でキュビズムに光を取り入れた構成的な作品を残す。

マックス・エルンスト (1891年～1976年) ドイツのケルン近郊ブリュール生まれ

- 1909～1912年 ボン大学で哲学、心理学、美術史を学ぶ
- 1916年 ダダイストたちとの最初の展覧会
- 1922年 パリ移住 コラージュ、フロッターージュ、デカルコマニーなどを利用した作品制作を始める。
- 1939年 第二次世界大戦勃発
- 1941年 ニューヨークに移り、ブルトン、デュシャンらとともにシュルレアリスムの活動を行う。
- 1953年 パリに戻る。
- 1954年 ヴェネチア・ビテンナーレで大賞を受賞したためシュルレアリストを除名される。
- 1975年 ニューヨークのグッゲンハイム美術館で大回顧展
- 1976年 パリにて死去

高原洋一 (1944年～) 岡山市に生まれる

- 1968年 武蔵野美術大学卒業
- 1977年 第13回現代日本美術展(～第17回)
第16回国立国際美術館賞、第17回佳作賞、京都国立近代美術館賞、栃木県立美術館賞
- 1980年 個展(シロタ画廊・銀座、89、94年)
第13回日本国際美術展(第14、16回) 第14回兵庫県立近代美術館賞
- 1987年 第3回西武美術館版画大賞展(西武アートフォーラム)・優秀賞
- 1989年 第3回和歌山版画ビエンナーレ・買上賞
- 1991年 個展(ヒロチカシゲギャラリー・岡山、98、96、00年)
- 1999年 現代の美術・今日の情況展(東広島市美術館、08年)

- 2000年 現代版画の世界（和歌山県立近代美術館）
- 2002年 個展（アートガーデン・岡山、05、09、11）
- 2006年 第7回福武文化賞受賞
- 2008年 高原洋一展 風景のメタモルフォーシス
（奈義町現代美術館、岡山シティミュージアム、倉敷市立美術館）

池田満寿夫（1934年～1997年）

- 1934年 旧満洲国生まれ
- 1945年 終戦によって母と郷里の長野市に引き揚げ。
- 1962年 高校卒業後上京するも芸大受験に3度失敗。瑛九のすすめで版画を始める。
- 1960年、1962年、1964年 東京国際版画ビエンナーレ展連続受賞
- 1965年 ニューヨーク近代美術館で日本人初の個展開催
- 1966年 第33回ヴェネツィア・ビエンナーレ版画部門国際大賞を受賞。
- 1977年 芥川賞を受賞。帰国後は、熱海に住み、陶芸や立体造形へ関心を向ける。
- 1997年 死去

ジャスパー・ジョーンズ（1930年～） アメリカのジョージア州オーガスタで生まれる。

- 両親の離婚後、南カルフォルニアへ。短期間サウスカロライナ大学で学ぶ。
- 奨学金を得てニューヨークの商業美術学校で学ぶが途中で退学。
- 徴兵されて2年間軍隊に入り、陸軍兵として日本の仙台に駐屯。
- 1954年 ウィンドウ・ディスプレイなどの仕事を行う。
- 1957年 ジューイッシュ美術館での「ニューヨーク派の美術家たち・第二世代」展に出品。
- 1958年 レオ・カステリ画廊で初個展。以後、定期的に同画廊で個展。
ピッツバーグ・ビエンナーレ現代絵画彫刻国際展で国際賞受賞。
- 1964年 ジューイッシュ美術館で回顧展。ロンドンのホワイト・チャペル画廊で回顧展
- 1973年 オークションで「二重の白い地図」が24万ドルで落札。（アメリカ現存画家の最高値）
- 1977年 ホイットニー美術館で大規模回顧展。ヨーロッパと日本も巡回。

森俊夫（1948年～） 岡山県岡山市に生まれる

- 1970年 岡山大学教育学部卒業 1972年 京都市立芸術大学修了
- 1973年 渡米
- 1975年 ジャパニーズ・アーティスト・オブ・ブルックリン（ブルックリン・ミュージアム）
シナ・アメリカ版画展（国立歴史博物館・台北）
- 1977年 帰国
- 1978年 女1人と男6人版画集展（岡山県総合文化センター）
以後、ガレリア・クラフィカ（大阪・東京）、村松画廊（東京）、アルシュ（東京）
- CASA（大阪）等で個展 コンクールにて受賞多数 現在 京都文教大学
教授 京都府在住

俵屋宗達（江戸初期 生没年不詳）

1570年代前後の生まれか。京都で「俵屋」という絵画工房を率い、扇絵を中心とした屏風絵や料紙の下絵など、紙製品全般の装飾を制作。単なる扇絵職人ではなく、慶長7年（1602年）平家納経の修復に関わったり、皇室からも作画の依頼を受ける。本阿弥光悦らの書巻に下絵を描き、嵯峨本の出版にも関係した。寛永7年（1630年）町絵師としては異例の法橋の位が与えられた。1640年前後死去か。

宗達の「風神雷神図」（国宝）は淋派を代表する作品として彼を師と仰ぐ絵師（尾形光琳、酒井抱一、鈴木其一）によって描き継がれていった。

鈴木其一（1796年～1858年）

江戸淋派の祖 酒井抱一の一番弟子。江戸中橋で紺屋の息子として生まれる。18歳で酒井抱一の内弟子になる。22歳の時婿養子として鈴木家の家督を継ぐ。

1832年、関西の古い社寺を訪ね古書画の研究を通して独自の画風を作り出していく。1841年から1846年にかけて、抱一が出版した「光琳百図」の版木が焼けてしまったため、其一が複製して再出版をする。この過程で宗達や光琳の作品を歳学習したことで其一の画風に大きな影響を与えたと思われる。

其一の作風は淋派の伝統を踏まえつつ、鮮やかな色彩と独自の斬新なデザインの構図で構成されているのが特徴。

長沢芦雪（1754年～1799年）

江戸時代中期に活躍した絵師で、円山応挙の高弟。

宝暦4年（1754年）京都・篠山、丹波篠山青山下野守家臣、上杉彦右衛門の子として生まれる。

応挙の高度な作風を身につける卓越した描写力に加え、奇抜な着想と大胆な構図、奔放で独特な画風は若冲や曾我蕭白と共に「奇想の画家」といわれる。また、その性格は、酒好きで奔放である一方、傲慢な面があったと伝えられる。そのため、同時期の絵師と比べその作品や活動歴は少なく、「破門説」をはじめ、さまざまな逸話がある。

1786年（天明6年）無量寺再建成就にあたって応挙は祝いに『波上群仙図』や『山水図』等、障壁画12面を描くが、多忙で高齢なこともあり、南紀に芦雪を向かわせ障壁画を描かせる。

その時描かれた『虎図』『龍図』は芦雪のみならず江戸絵画の名作として現在評価されている。

1799年（寛政11年）、46歳で大阪において客死。一説には周囲の嫉妬や憎しみによる毒殺であったとも、自殺であったともいわれる芦雪の死は謎に包まれる。

司馬遼太郎の短編「芦雪を殺す」には独特の視点で長沢芦雪の生涯が描かれている。

狩野山雪（1590～1651年）

九州肥前に生まれる。父に従い大阪に移り住むが、慶長10年（1605年）父と死別。叔父の薦めで、狩野山楽に弟子入り。徐々に頭角を現し、山楽の娘婿となり狩野派を継ぐ。

山雪は孤独を好み、蔵書家で学者としての側面を持ち、絵画史の研究を行う。山雪の子・狩野永納が著した「本朝画史」は日本画史の基本史料として知られるが、山雪の草稿を永納が完成させたものである。

池大雅（1723～1776年）

京都銀座役人の下役の子として生まれる。4歳で父を亡くし、母と二人の生活になる。7歳から本格的に唐様の書を学び始め、萬福寺でその書を披露したところ、「神童」と絶賛された。

15歳になると生計を立てるため扇屋を始める。16歳で彫印屋をひらき篆刻をする。柳沢淇園に才能を見いだされ、文人画を教わる。中国の子地や名所を題材とした屏風や日本の伝統的な絵画を研究しながら独自の画風を確立した。

「万巻の書と呼ばひ、万里の路を行く」という文人画の方法論に従い旅を好んだ。その体験は大雅の絵の特色である広々とした絵画展開やリズム感のある描線となって生かされる。

村山槐多（1896年～1919年）洋画家、詩人

横浜市に生まれる。母が結婚前に森鷗外家で奉公をしており、その縁で鷗外が槐多の名付け親となる。4歳で京都へ移り、中学校時代に従兄の山本鼎の影響を受け、10代からボード

レールやランボーを読み、詩を作る。早熟で、デカダンな生活、貧しさや失恋による心労などにより、結核性肺炎を患っていた。

1914年上京、二科展と日本美術院展覧会で活躍。美術院賞など受賞するが 1919年 2月、スペイン風にかかり寝込む。 2月 19日夜 9時頃みぞれまじりの嵐の中を外に飛び出し、午前2時頃畑の中に倒れているのを発見される。